

市民コメントの結果

- 案件名 「坂戸市農業振興ビジョン（後期）（案）」への応募意見及び検討結果
- 募集期間 平成28年10月18日～11月18日
- 意見提出 29件／4名
- 担当課 農業振興課

I はじめに

No.	ページ	御意見・御提案の概要	御意見・御提案に対する考え方
I-1	P 1	上から10行目「こうした環境に的確に対応しつつ抱える課題を解決していくためには、 <u>もうかる農業</u> ・・・」とあります。坂戸市の農業・農村の将来像として推進するのは農業が生業として成立し、子どもたち（学校給食用食材導入促進）も含めた市民生活が豊かで安らぎのあるものになって行くための「ビジョン」なのだと思います。その姿勢を示す「持続可能な農業」「資源循環型農業」「有機農業」と言った表現が必要ではないかと思えます。生産・流通・販売・消費・廃棄までを見据えた息の長い取り組みが坂戸市の農業の源となるのではないのでしょうか。	頂いた御意見は、P8「2 施策の基本方向」の「安全・安心で環境にやさしい農業の推進」及び「市民の暮らしを支える農業の推進」の項の取組の参考とさせていただきます。
I-2	P 2	農業振興ビジョン推進計画 ※ 毎年度策定します。となっております。計画策定内容について、市民への情報開示は具体的にどのようなことができますか。	ホームページを活用した情報開示を検討してまいります。
I-3	P 2	本ビジョンは何部作成され、どの範囲まで配布し（例、国、県、関係団体等）どう生かされるのですか。	県、いるま野農業協同組合、農業生産組織、市の出先機関に配布し、ホームページで公表していきます。本ビジョンは、5年から10年先を見据えた本市農業・農村の将来像と、その実現に向け平成29年度から平成33年度までの5年間に取り組む施策を総合的に推進するために生かしてまいります。

II 農業・農村の現状と課題

No.	ページ	御意見・御提案の概要	御意見・御提案に対する考え方
II-1	P 3	「新規就農者は毎年1～2人となっています。」とあります。坂戸市の農業に魅力があり、家族の生活を支える収入も安定し、持続性が保たれていれば新規に就農される方も増えていくと考えます。高齢者ばかりを憂えるのではなく、若い男女の生産者を増やす為の「農業ビジョン」将来像であって欲しいものです。その一つの課題に「学校給食用農畜産物食材導入促進政策」があると思えます。	頂いた御意見は、P8「2 施策の基本方向」の「元気な農業・農村づくりの推進」及び「市民の暮らしを支える農業の推進」の項の取組の参考とさせていただきます。

Ⅱ－２	P 3	<p>「年齢別農業就業人口」のグラフで、H17の「45歳から54歳」は「約70人」です。これが10年後のH27の「55歳から64歳」は、「113人に増えて」います。「1.6倍に増えて」います。後継者や新規と思いますが、この中に頑張っている人がいます。この年代が、儲かる農業になれば、後継者ができると思います。</p>	<p>頂いた御意見の通りですので、定年帰農者や新規就農者などの多様な担い手の育成に努めてまいります。</p>
Ⅱ－３	P 6	<p>多品目少量生産の生産者数が増えれば、子ども達を含めた市民の食生活が豊かになっていくと思います。食品加工の知恵は「くらしの会」会員さんもしっかりお持ちです。6次産業化の推進も大事ですが、足元を見つめ着実に農業所得の向上につなげる流通・販売体制を構築する事は可能だと思います。坂戸市内には素晴らしい加工品を作っている方々があります。昔ながらの知恵や工夫を多くの市民に、市外の方々にも伝えていかれたら、もっと坂戸市の農業が元気になると思います。「坂戸市くらしの会」さんが「消費生活展・くらし展」で長年発表されているお漬物や乾燥野菜の煮物、多くの野菜の保存法、どれも貴重な情報です。これらの事を伝承し、流通・販売の支援をしていくことも大事です。</p>	<p>頂いた御意見は、P8「2 施策の基本方向」の「市民の暮らしを支える農業の推進」及び「農業の多面的な機能を発揮した地域振興の推進」の項の取組の参考とさせていただきます。</p>

Ⅲ 農業振興の基本的な考え方

No.	ページ	御意見・御提案の概要	御意見・御提案に対する考え方
Ⅲ－１	P 7	<p>「学校給食への食材提供などに取り組んでいます。」とあります。坂戸市の子どもたちが健やかに成長する一番大切な時期の「学校給食」に対して、その取り組みがここに来てやっと出てきました。「市民の健康につながる安全・安心な農畜産物の生産を通じて農業所得の向上を図ります。」であるなら、なおのこと、坂戸市が責任をもって子どもたちの健康に寄与して欲しいと思います。安全・安心な農畜産物の学校給食への導入は生産者の励みにもなり、生活の安定にもつながります。その仕組みは大事な施策だと思います。</p>	<p>頂いた御意見の通り、安全・安心な農畜産物の学校給食への導入に向けて、エコファーマー・GAPなどを推進してまいります。</p>

Ⅲ-2	P 8	基本方向に「環境へ配慮した資源循環」「持続可能」「有機農業の推進」と言った文言はありません。方向としては目指さない、ということでしょうか。	まず、5年間の取組としては、エコファーマー・GAPなどといった、環境への負荷を軽減する農業生産を推進してまいります。
Ⅲ-3	P 11	「エコファーマー・GAPに取り組む農業者が増加し、環境にやさしい農業が展開されています。」とあるならもう一步進めて「有機農業の推進」まで踏み込んで頂きたいと思えます。	「有機農業」については、農業生産の技術的な確立が未確立なため、経営面で不安定要素が大きい、といった課題があります。まず、5年間の取組としては、エコファーマー・GAPなどといった、環境への負荷を軽減する農業生産を推進してまいります。
Ⅲ-4	P 11	(1) 農作業体験を通して農を活用した心の教育が実践されています。とありますが、「心の教育」ではなく、「作物を作る大変さ、食べ物の大切さ」への理解を目的とするのが妥当だと思います。すべての食材(動物・植物・海産物)はその「生命」を頂いて成り立っています。「生命の大切さを学ぶ」のが「農業体験」だと思います。	頂いた御意見を参考にし、表記を訂正しました。
Ⅲ-5	P 12	「目標値」が小さすぎると思えます。達成できる最小値を記述しているという理解で良いでしょうか。	今までの実績及びこれからの見込みを踏まえて設定いたしました。

IV 農業振興の基本的な考え方

No.	ページ	御意見・御提案の概要	御意見・御提案に対する考え方
IV-1	P 1 3	(3) ① 環境保全型農業の推進は、「有機農業の推進」ではいけないのでしょうか。	「有機農業」については、農業生産の技術的な確立が未確立なため、経営面で不安定要素が大きい、といった課題があります。まず、5年間の取組としては、エコファーマー・GAPなどといった、環境への負荷を軽減する農業生産を推進してまいります。
IV-2	P 1 3	(4) ① 地産地消の推進とありますが、学校給食とのつながりが読み取れません。もっと積極的に「学校給食用農畜産物食材導入促進」を一項目として加えて頂けないでしょうか。	頂いた御意見は、P 1 8 「(4) 市民の暮らしを支える農業の推進」の「①地産地消の推進」の項の取組の一部としています。
IV-3	P 1 3	(5) ① 心の教育、という文言は適切ではないように思います。	頂いた御意見を参考にし、表記を訂正しました。
IV-4	P 1 4	「地域農業を支える多様な担い手としての女性農業者や高齢者の活動を促進します。」とあります。「障がい者」も入れて頂きたいです。新規参入者＝男性でもありません。あえて「女性農業者」とするより、若い年代の男性・女性が農業に関われる支援が大切だと思います。(男女共同参画の視点からも疑問に感じます)「多様な担い手としての若い年代の男女・障がい者・高齢者」に。	「担い手」は、新規就農者に限らず、農業経営の安定や改善を目指す意欲ある農業者を指します。農業者全体に占める女性経営者の割合が、いまだ十分でないことや定年帰農者の増加を考慮し、この記述としています。

IV-5	P 1 4	<p>「集積・集約」「生産コストの低減」「大区画化」だけではなく、坂戸市の農業は、農業者が夢と希望を持って、露地栽培、多品目少量生産も含め、多様に展開できる可能性があるものだという姿勢が必要ではないでしょうか。今現在農業に従事している方々から、多くの経験や知恵を若い方々に伝承し、発展させていく仕組みも作って頂きたいと思います。</p>	<p>頂いた御意見は、P 1 5 「(2) もうかる農業の推進」の「① 直売型農業経営の推進」「② 坂戸市産農畜産物のブランド化の推進」の項に、また、P 1 7 「(3) 安全・安心で環境にやさしい農業の推進」の「①環境保全型農業の推進」の項の取組の参考とさせていただきます。</p>
IV-6	P 1 5	<p>J Aいるま野「新菜八」(にっさい花みず木3-12-3)の立地は最高に善いが、道路側から何も情報が無いので入れない(閉店?)。毎朝にバス停で観ていますが、他県の車がたくさん通ります。ゴルフ客と思われる。入西は、人口増加地区でもあり住民も多くいます。</p>	<p>「新菜八」は、平成27年11月に閉店し、現在、「さかど農産物加工所」に改修し、6次産業化拠点として利用しています。</p>
IV-7	P 1 7	<p>「法令を遵守した農薬の適正使用を推進」とありますが、環境にやさしい農業の推進を目指すのであれば、「減農薬、無農薬、有機栽培の資源循環型農業の推進」を坂戸市の農業の発展につなげるキーワードとして頂きたいです。</p>	<p>エコファーマー・GAPなどといった、環境への負荷を軽減する農業生産を推進の取組の参考とさせていただきます。</p>
IV-8	P 1 7	<p>農畜産物の安全を脅かす事件・事故に対して・・・、とありますが、福島原発事故による放射能汚染も忘れてはいけません。子どもたちに安心して食べてもらうには、農地の放射能測定と測定値の公表、生産された農産物の検査も合わせて公表していく事が求められているのだと思います。生産履歴同様、放射能測定値の明記と公表によって、学校給食用食材ばかりではなく、坂戸市内全域での「食の安全」が守られることを伝え、今後長い期間付き合っていかなければいけない放射能汚染に坂戸市として対応して欲しいです。</p>	<p>放射性物質の農産物等への影響については、埼玉県と連携し、調査を行い、ホームページで公表しています。</p>
IV-9	P 1 8	<p>P 1 8 ①主な取組内容3、は①から切り離して、別項目としてください。 「例」学校給食の推進 農業者、農業関係団体、教育機関と連携し、地場野菜をはじめ農畜産物の拡大を推進します。</p>	<p>「学校給食の推進」は、「地産地消の推進」の一部と位置づけています。</p>

IV-10	P18	「子どもたちの健やかな育ちに寄与する安心・安全な学校給食用食材としての地場農畜産物利用拡大と生産者の収益向上を支援する仕組みの確立」と言う坂戸市独自の積極的な取り組み姿勢が欲しいです。	頂いた御意見は、P18「(4) 市民の暮らしを支える農業の推進」の「①地産地消の推進」の項の取組の参考とさせていただきます。
IV-11	P18	入西地区は人口集中していて市内唯一の人口増加地区です。ここで地消すれば売上増できます。JAいるま野「新菜八」をリニューアルすればコスト縮減が図れると思います。まあ、やる気が大事ですね。	「新菜八」は、「さかど農産物加工所」として利用しています。加工所で製造した加工品の地産地消に努めてまいります。
IV-12	P18	組合員だけでなく、誰（市民農園など）でも参加できる登録制にして手数料で賄える仕組みにする。品揃えも「北部エリア」の品物を置いてスーパーと差別化を図り、競争する体制にする。	市民農園等においては、営利目的で作物を栽培できない、という法律等も考慮しつつ、頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
IV-13	P19	農業体験は「食育教育」にも関係する大事なものです。その取り組みを否定するものではありません。今治市では基本理念に「自然と共に育ちながら生命を大切に作る気持ちを養う」とし、種蒔き、雑草取り、収穫などの作業をとおして土と思い切りふれあう体験を重視し、野菜の成長や生命力、自然や生きものの大切さを無理なく伝えてきた、としています。「心の教育」とは違うのでは、と思います。	頂いた御意見を参考にし、表記を訂正しました。
IV-14	P19	健康の維持・増進に農業体験は良い機会だと思います。人と人とがふれあう機会を増やし、障がい者も高齢者も住んでいる地域の中でつながりが出来、生きる喜びや生きがいにもなっていくと思います。農業の多面的な機能が坂戸市民の「元気」につながって行く為の大切な施策だと思います。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

V ビジョンの実現に向けて

No.	ページ	御意見・御提案の概要	御意見・御提案に対する考え方
V-1	P20	イ. 総合振興計画は「市民との協働」が中心です。また、H24年策定のロ. 全体ビジョンにもその視点がありました。本ビジョンには市民農園等の文言はあるもののイ. ロ. との整合性は。	頂いた御意見の視点は、P20「Vビジョンの実現に向けて」の項に記述があります。
V-2	P20	閉鎖的な組織でなく、誰でも売れる市場（マルシェ）をインターチェンジの近くに出来ると良いと思います。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

※ 自由な意見・提案

No.	ページ	御意見・御提案の概要	御意見・御提案に対する考え方
※-1	—	<p>前回の農業ビジョンへの意見でも書きましたが、教育現場との連携で「学校ファーム」を通じた食と農への理解を深めていくことが大事だと思います。ビジョンの中に「学校ファームのさらなる発展に、様々な角度から支援・応援・協力をしていきます。」を付け加えて頂きたいと思います。農業振興課が中心となって、教育行政も巻き込んだ坂戸市の農業振興を強力に推し進めて頂きたいと思います。その一つが「学校ファーム」との連携・支援だと思います。子どもたちが、土に触れ、種を蒔き、草取りをし、収穫して調理し、堆肥を作り、土になる「資源循環」を実感できる貴重な取組みとなります。生産・流通・消費・廃棄まで責任を持つことがいかに大切か、食と農への理解を深めていく活きた教材として「農業とふれあう機会」を作って欲しいです。「学校ファーム」の取り組みを具体的に、積極的に明記して欲しいです。</p> <p>愛媛県今治市の農林振興課「今治市の農業振興」には学校給食への取り組みが明記されています。「これぞ今治の学校給食」とブログにも、農業との連携が強く打ち出されています。今治市「食と農のまちづくり条例」が学校給食に関心を持ち続けている関係者の貴重な指針となっています。坂戸市の子どもたちが有機農作物をたくさん食べて、農業への関心も高め、生産者の収益につなげることが出来る「地場農畜産物導入」を推し進めていく為にも、大切な施策の方向を示すことが求められていると思います。関係する方々の連携を強め、坂戸市の子どもたちの未来の為に、しっかりした方向性を出して頂けるよう、心から願っています。</p>	頂いた御意見は、P18「(5) 農業の多面的な機能を発揮した地域振興の推進」の項の取組の参考とさせていただきます。

<p>※-2</p>	<p>—</p>	<p>園芸好きの人や、運動不足の社会人、農業をやりたいけれど土地のない人など、1日だけの農業に参加したい人は多いはず。市が、経営する農業会社(?)に、半日、又はあき時間のみ参加で、お土産の野菜がもらえる、とか、ワークマンで、1日農民を募集してみるなど、農業務を、完全マニュアル化して、草かきや、シャベルなど貸し出して、市が運営を行うなどどうでしょうか?とれた野菜は市内にあるスーパーで買ってもらう又は売らせてもらう。小学校などへ給食材支給する、老人ホームなどで販売するなど安くてとりたてなら、他県のものより売れるのでは?大型の耕運機は市が所有、保管、管理して稲の田植など一度に行う。除虫などはマガモに食べてもらい、坂戸産鴨ブランドで販売する。農作業用ウェアも、スポーツブランド並に機能的に(防蚊など)デザインされたものを用意して(カインズ〇ームでは、時代おくれの変なガラのものしかない)販売する。デザインは美大の学生などにコンペで募集、コンペは毎年やる。</p> <p>オシャレで楽しい農業を楽しみましょうというコンセプトで“農作業”というスポーツ?フィットネス?で汗を流してみるのがよいのではないのでしょうか?イモが出来たらイモ堀り&イモ煮イベント 果物がとれたらスイーツに、市内のケーキ販売店やレストランと協力して、毎年何回も</p> <p>たとえばオクトーバーフェストの様な楽しい企画が出来ると思います。腰が痛くなってしまったり、筋肉痛になってしまっても市内には接骨院が多い様なので、マッサージ、針などアフターケアについてのサービスも(たとえば市営農場まで、市役所などからバスで送迎無料又は100円くらい)</p> <p>サービスチケットを配るとか、市役所に足湯つくって、無料で利用できるとかストレッチのただししいやり方のチラシを配ったり、筋肉痛のケアのし方のチラシを配ったりしてあげるサービスなど。</p> <p>乱筆乱文にて失礼します。1日農業を楽しみたい一人です。園芸作業をする事で、認知症の予防や、改善に役立つそうです。</p>	<p>頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>